

学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例（令和6年度版）

| | | | |
|-----|-----------|-------|-----|
| 学校名 | 指宿市立山川中学校 | 児童生徒数 | 29人 |
|-----|-----------|-------|-----|

○ 令和5年度 振り返りの実際

成果

令和5年度は、第2学年英語科「Stage Activity②」で生徒はグループに分かれ、トピックを決め、アンケート実施、結果集計、分析を英語で行い、グラフに結果をまとめ、英語で分かりやすく発表するという単元を構成した。

生徒が主体的に学習するように、アンケート作成、英文による分析活動の際、教師による指導を極力抑えた。

振り返りの実践として、①ロイロノートによる練習風景の撮影を行い、全体の発表の前に自分たちの「良い点」、「改善点」を振り返ることができるように工夫をした。

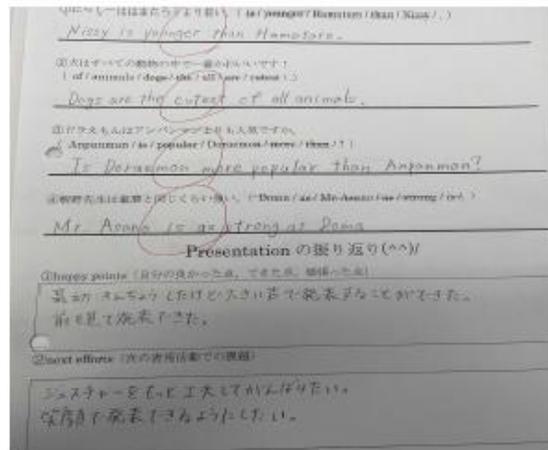
振り返りシートにただ感想を書かせるのではなく、その単元に必要な重要表現を確認できるようなポストテストも導入した。

- ① English (発音大丈夫?)
- ② Voice (はっきり、大きく)
- ③ eye contact (相手の目を)
- ④ enjoy speaking (超大事)

11時15分までは、many chances!
11時15分までに、final cutを提出

上記の4点を Point として示し、生徒は、自分たちの発表を評価し、Brush Up していった。

実際に自分の姿をロイロノートで振り返ることは意味があると感じているので、継続している。



感想だけでなく、ポストテストを導入したことで、生徒自身も達成度を理解し、教師側も補充学習が発展学習を行う指針になった。

課題

- ① 小中同一の Can-Do リストを作成しているが、このような Large Task の授業でのみ使っているのが現状であった。
- ② 全体 Goal は提示するが、生徒間の能力があり、Goal に対して達成できていたのかが分かりにくかった。
- ③ 接続の問題があり、なかなかロイロノートに繋がらず、ICT 機器での振り返りを実践しようと思ったが、できなかった。

○ 令和6年度 振り返りの実際

改善策

令和5年度の実践の反省を生かし以下のような実践を1学年 New Horizon① My Hero で行った。

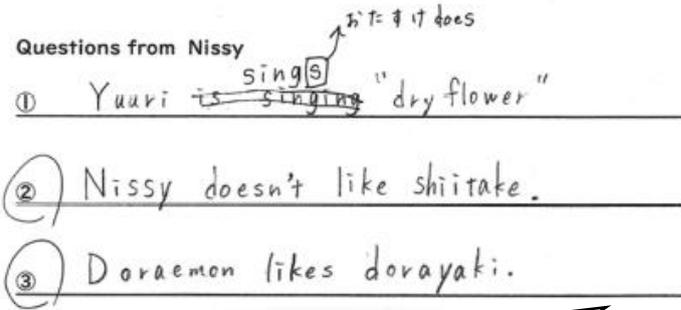
- ① 単元全体を一貫して振り返ることのできる振り返りシートを作成し、単元の goal, 毎時間の goal を Can-Do の形にした。
- ② 毎時間の goal に対する my goal を設定するようにした。
- ③ ポストテストを継続して、導入する関係で、紙による振り返りを行った。

成果等



できたことは、グループで教え合った時間にしっかり相手が自分の説明で理解することできていたこと。できなかったことは、工夫した英文を3文しか書けなかったもので、次は、5文以上で書きたい。

このような形式にしたことで、生徒は「何ができていて」、「何ができていなかった」のかを以前よりも明確にすることができ、次時に自分は何をするべきなのか分かったうえで、授業に臨んでいた。結果、生徒の意欲もさらに向上し、英作文や発表の質が向上している。



左図は、振り返りの際のポストテストである。今単元では、3人称単数現在の文法エラー（3人称 does の欠落）がよく発生するが、比較的学力の高い生徒でもポストテストでは、does の欠落が見られた。Large Goal が終了してすぐにポストテストを行うことで、生徒の頭に重要事項を input しやすと感じた。

お助け does の存在を忘れてしまうことがあったので、英文を書くとき、読むときは主語に気をつけたい。

今年度は「個別最適な学び」の機会の確保と「振り返りの充実」に焦点を当てて実践を積んできたが、振り返りに関しては、上記の実践に手応えを感じている。

来年度は、振り返りの視点を Good「よかったこと」Bad「悪かったこと（改善点）」Next「次の時間どうするか」という視点を取り入れ、毎時間振り返りの共有の時間も確保できるように授業をデザインしていきたい。